

スコアシート		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理										
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
	W	G	S		評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質・性能									3.2			
Q-1 室内環境							0.40		3.4			
1 音環境							4.2	0.15	2.9	1.00	3.2	
1.1 騒音							5.0	0.40	3.0	0.29		
1.1.1 暗騒音レベル							5.0	1.00	3.0	1.00		
1.1.2 設備騒音対策												
1.2 遮音							5.0	0.40	3.8	0.50		
1.2.1 開口部遮音性能							5.0	1.00	5.0	0.30		
1.2.2 界壁遮音性能									3.0	0.30		
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									4.0	0.20		
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	0.20		
1.3 吸音							1.0	0.20	1.0	0.21		
2 温熱環境							2.0	0.35	3.7	1.00	3.4	
2.1 室温制御							2.0	1.00	3.0	0.63		
2.1.1 室温設定							2.0	0.60	-	-		
2.1.2 換気熱源・温度制御性												
2.1.3 外皮性能					W		2.0	0.40	3.0	1.00		
2.1.4 ゾーン別制御性												
2.1.5 温度・湿度制御												
2.1.6 個別制御												
2.1.7 時差・外気部に対する配慮												
2.1.8 監視システム												
2.2 湿度制御												
2.3 空調方式									5.0	0.38		
2.3.1 床暖房を取り入れ上下温度差がなくなるように考慮した。												
3 光・視環境							3.0	0.25	3.5	1.00	3.4	
3.1 昼光利用							4.2	0.30	4.0	0.50		
3.1.1 昼光率							5.0	0.60	5.0	0.50		
3.1.2 方位別開口									3.0	0.30		
3.1.3 昼光利用設備					W		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策							2.0	0.30	3.0	0.50		
3.2.1 透明部材のグレア												
3.2.2 昼光制御					W		2.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度							3.0	0.15	-	-		
3.3.1 照度							3.0	1.00	-	-		
3.3.2 照度基準												
3.4 照明制御							3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境							3.6	0.25	3.6	1.00	3.6	
4.1 発生源対策							4.0	0.60	4.0	0.63		
4.1.1 化学物質汚染							4.0	1.00	4.0	1.00		
4.1.2 化学物質汚染												
4.1.3 デー・カビ等												
4.1.4 レンズガラス												
4.2 換気							3.0	0.40	3.0	0.38		
4.2.1 換気量							3.0	0.50	3.0	0.33		
4.2.2 自然換気性能									3.0	0.33		
4.2.3 取り入れ外気への配慮							3.0	0.50	3.0	0.33		
4.2.4 給気制御												
4.3 運用管理												
4.3.1 CO ₂ の監視												
4.3.2 喫煙の制御												
Q-2 サービス性能								0.30			3.5	
1 機能性							4.4	0.40	4.2	1.00	4.2	
1.1 機能性・使いやすさ							4.0	0.60	4.0	0.60		
1.1.1 広さ・収納性												
1.1.2 高度情報通信設備対応									4.0	1.00		
1.1.3 バリアフリー計画							4.0	1.00				
1.2 心理性・快適性							5.0	0.40	4.5	0.40		
1.2.1 広さ感・景観									4.0	0.50		
1.2.2 リフレッシュスペース												
1.2.3 内装計画							5.0	1.00	5.0	0.50		
2 耐用性・信頼性							3.0	0.31			3.0	
2.1 耐震・免震							3.0	0.48				
2.1.1 耐震性							3.0	0.80				
2.1.2 免震・制振性能							3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数							3.1	0.33				
2.2.1 外壁仕上げ材の補修必要間隔					W		4.0	0.29				
2.2.2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					W		2.0	0.12				
2.2.3 配管・配線材の更新必要間隔					W		3.0	0.29				
2.2.4 主要設備機器の更新必要間隔					W		3.0	0.29				
2.3 適切な更新												
2.3.1 屋上・屋根・外壁仕上げ材の更新												
2.3.2 配管・配線材の更新												
2.3.3 主要設備機器の更新												
2.4 信頼性							3.2	0.19				
2.4.1 空調・換気設備							3.0	0.20				
2.4.2 給排水・衛生設備							3.0	0.20				
2.4.3 電気設備							3.0	0.20				
2.4.4 機械・配管支持方法							3.0	0.20				
2.4.5 通信・情報設備							4.0	0.20				
精密機器に対しては洪水ハザードマップによる浸水予想の有無及び冠水履歴を調査し地盤高さを決定、光ケーブルの採用を行って												

スコアシート		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	W	G	S						
3 対応性・更新性					2.8	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					-	-	3.2	0.50	
1 階高のゆとり				階高2,960mm、2,925mm、2,910mmとしている。	-	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ					-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					2.8	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性					2.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22	-	-	
Q-3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		G			2.0	0.40	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		G			3.0	0.20	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.40	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			S		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	W	G			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR-1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制	W				3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用	W				3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	W	S			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	W			過度な照明を避け、省エネに配慮した。	5.0	0.40	-	-	5.0
4 効率的運用					-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	W				-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	W				-	-	-	-	-
LR-2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護					3.6	0.15	-	-	3.6
1.1 節水	W			節水型水栓型便器を採用しています。	4.0	0.60	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用					3.0	0.40	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	W				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水再利用システム導入の有無	W				3.0	0.33	-	-	
2 低環境負荷材					3.6	0.85	-	-	3.6
2.1 資源の再利用効率					3.6	0.35	-	-	
1 躯体材料の再利用効率	W			再生建設資材の積極的な採用をしている。	3.0	0.67	-	-	
2 非構造材料の再利用効率	W				5.0	0.33	-	-	
2.2 持続可能な森林から産出された木材	W				2.0	0.04	-	-	
2.3 有害物質を含まない材料					3.0	0.08	-	-	
2.4 既存建築躯体などの再利用	W			乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別が比較的容易である。 (躯体・LGS・仕上材)ユニットバス、システムキッチン、洗面化粧台ユニットを採用	3.0	0.18	-	-	
2.5 部材の再利用可能性	W				5.0	0.18	-	-	
2.6 フロン・ハロンの回避					3.5	0.18	-	-	
1 消火剤	W			ハロン消火剤を一切使用していない。	4.0	0.50	-	-	
2 断熱材	W				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	W				-	-	-	-	
LR-3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.5
1 大気汚染防止	W			潜熱回収型を使用している。	4.0	0.10	-	-	4.0
2 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.05	-	-	3.0
2.1 騒音					3.0	1.00	-	-	
2.2 振動					-	-	-	-	
2.3 悪臭					-	-	-	-	
3 風害、日照障害の抑制					1.6	0.10	-	-	1.6
3.1 風害の抑制					1.0	0.70	-	-	
3.2 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	
4 光害の抑制				光害対策がイトライのチェック項目の過半を満たしている。過剰な外部照明の抑制しセンサーやタイマーを使用。広告塔はなし	5.0	0.05	-	-	5.0
5 温熱環境悪化の改善	W	G	S		1.0	0.30	-	-	1.0
6 地域インフラへの負荷抑制					3.3	0.40	-	-	3.3
6.1 雨水処理負荷抑制	W				3.0	0.30	-	-	
6.2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.10	-	-	
6.3 交通負荷抑制				1). 2)自転車台数を住戸分確保し、居住者専用のレンタルサイクルを設置している。	4.0	0.30	-	-	
6.4 廃棄物処理負荷	W		S		3.0	0.30	-	-	

■ LR-1 用途別点表		集合住宅	-	-	-	面積按分
		11,001 m ²	-	-	-	総合スコア
1	建物の熱負荷抑制	3.0	-	-	-	3.0
3	設備システムの ERRIによる評価	-	-	-	-	5
	高効率化 個別設備による評価	5.0	-	-	-	
3.1	空調設備	-	-	-	-	-
3.2	換気設備	-	-	-	-	-
3.3	照明設備	5.0	-	-	-	-
3.4	給湯設備	5.0	-	-	-	-
3.5	昇降機設備	3.0	-	-	-	-